

## 第14回全共「ジャージー交流会」開催概況

1. 日 時 平成 27 年 10 月 23 日（金） 18:00～21:00
2. 場 所 北海道苫小牧市美沢 ノーザンホースパーク
3. 出席者 全共出品者、関係者など 56 名

### 4. 概 況

このたびのジャージー交流会は、第 14 回全日本ホルスタイン共進会が北海道安平町で開催されるに当たり、先進技術を紹介する講演会や成績優良牛の表彰に加えて、全共出品者や関係者で懇親の場を持ちたいという地元北海道からの要望に応え、日本ジャージー登録協会が主催する形で開催されました。全国ジャージー酪農振興協議会並びに北海道ジャージー酪農振興協議会の 2 団体からも多大な協賛を得ることができました。



当日は、安平町の北海道ホルスタイン共進会場から車で数分の距離に位置する



ノーザンホースパークに、第14回全日本ホルスタイン共進会のジャージー部門出品者20名に加えて道県のジャージー関係者、AI事業体関係者など56名が集合し、まずホースパークのBack Yard Grillにおいて東山佑介会長からの開会挨拶に引き続き、平成26年度に制定された「優良牛選奨規程」に基づき生涯検定選奨牛の表彰が行われました。まだ制定されてからの期間が短いこともあって頭数は少なかったものの、北海道剣淵町の株式会社オールダーランド並びに同社の石田守さん（北海道ジャージー酪農振興協議会副会長）の飼養牛が多数選奨されました。そこでこの度は特別賞として石田さんに東山会長から記念品が贈呈されました。



(東山佑介会長)



(表彰された石田さん)

また、事務局から過去の記録として9万5千kg以上を生産した岡山全共名誉賞牛の紹介、体型の優れたEX牛の紹介も同時に行われました。

続いて、カナダ・オンタリオ州でブライドン牧場を営むブライアン・セイルス氏から約40分の講演が行われました。(講演内容は別添のとおり)

講演終了後は会場をホースパークの本館に移し、懇親会が行われました。ここでは地元北海道ジャージー酪農振興協議会の加藤賢一会長から歓迎挨拶並びに北海道クラシックビールでの乾杯で幕が開きました。

今回の交流会には出品者も数多く参加されましたので、特に北海道の酪農家にとっては初対面の方も多かったとみえて、最初はぎこちない挨拶がされておりましたが、それは同じ酪農家同士、平素の飼養管理のみならず、ホルスタインとジャージーの違い、共進会での牛の仕上げ方など、興味深いことが話題となり、膝を交えて話し込む姿がみられました。

とはいえ、翌日朝にはホルスタイン種の審査が始まり、翌々日はジャージー種の審査が控えていましたので、宴たけなわでしたが、全国ジャージー酪農振興協議会の真田善弘委員長から中締め挨拶が行われ、交流会は盛会裡のうちに幕を閉じました。



(加藤賢一会長)

## 5. 講演

カナダ・オンタリオ州でブライドン牧場を営むブライアン・セイルス氏から、次のとおり約 40 分の講演が行われました。通訳は元野澤組で長らく北米との通商を担当された中込稔さんをお願いしました。

ブライアン氏は、オンタリオ州のパリスで 1943 年に生まれ、21 歳でブライドン牧場を開設しました。ジャージー種のみならずホルスタイン種でもブリーダーとして知られ、1986 年と 2011 年にジャージー種でマスターブリーダーの荣誉に称えられたほか、2010 年にはホルスタイン種でもこの荣誉に輝いています。

同牧場の生産した数多くの雄牛では、ホルスタイン種ではブライドン アストロジェットが、ジャージー種では古くはブライドン グランド スラムが、最近ではブライドン リメイク コメリカやブライドン ジャマイカが有名で、わが国でも多数の娘牛が血統登録されております。また、同氏は優れたショウマンに贈られる



カーティス・クラーク賞やクルッセンドルフ賞の荣誉に輝いております。

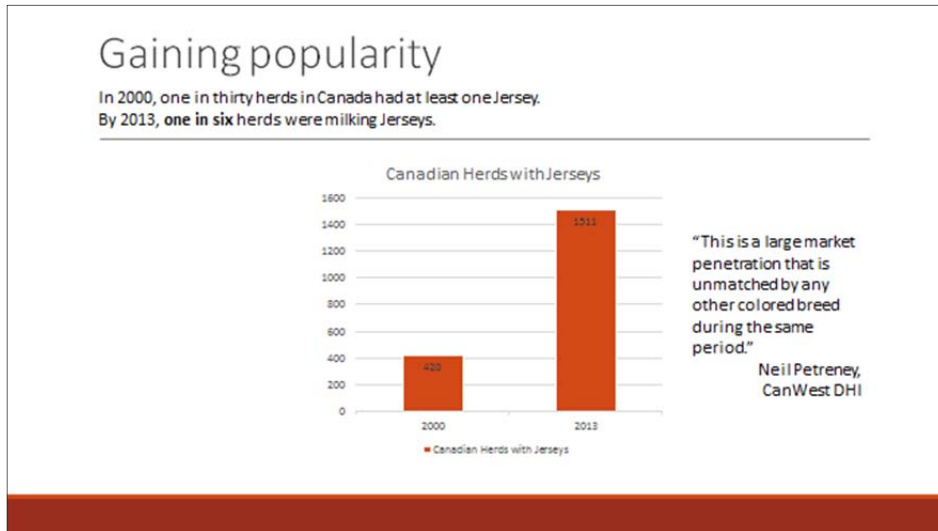
一方、昨年春には従来の繋ぎ牛舎を取り壊し、11月に完成したコンポストバーンにおいて息子さん2人と100頭のジャージーをロボット2台で搾乳

しております。

粗飼料はほぼ自給で、約 500 エーカー（約 200 畝）の耕地に、コーンを 200 エーカー（約 80 畝）、ソイビーン（大豆）を 140 エーカー（約 56 畝）、アルファルファを 200 エーカー（約 80 畝）、小麦を少々という具合。

ジャージー種の特徴である早熟性を生かすべく、21 か月分娩を目指しており、そのために生後 5 日間の初乳のあとはミルクリプレイサー（代用乳）を 3 ヶ月齢までロボット哺乳するほか、蛋白 21%ペレットを早くから与える。また、生後 9 か月齢からはコーンサイレージと乾草も給与するとの報告がありました。

一方、同氏からの講演ではカナダにおけるジャージー種の有利性と全国的にも増加している状況が報告されました。



この図は、少なくとも1頭以上のジャージーが搾乳されている農家数は2000年には410戸で、30戸に1戸の割合であったものが、2013年には1,511戸となり、6戸に1戸の割合でジャージーが搾乳されていることを示しています。カナダ全体での農家数は1万2千戸から9千戸に減少していますが、ジャージー飼養戸数は大幅に増加しており、これはカナダ独自のクォータシステムに由来しているとのこと。すなわち、農家毎に年間の出荷総脂肪量が厳密に決められており、そのクォータ自体がかなりの高額で取り引きされているほど。それ故、乳成分率の高いジャージー種が他の品種に比べて有利と考えられます。

Barn: smaller animals need less space

Age Group	Jerseys: Space Required	Larger Breeds: Space Required
0-12 months	20 ft <sup>2</sup> /calf 1.8 m <sup>2</sup> /calf	20 ft <sup>2</sup> /calf 1.8 m <sup>2</sup> /calf
13-24 months	32 ft <sup>2</sup> /heifer 2.9 m <sup>2</sup> /heifer	40 ft <sup>2</sup> /heifer 3.7 m <sup>2</sup> /heifers
24+ months	40 ft <sup>2</sup> /cow 3.7 m <sup>2</sup> /cow	54 ft <sup>2</sup> /cow 5.0 m <sup>2</sup> /cow



この図では、ジャージー種が他の品種に比べてより狭いスペースで飼えるこ


とを表しており、特に 13～24 月齢の育成時期では約 20%、24 月齢以上の搾乳牛では 25%もの省スペースで飼えるので、結果的には単位面積当たりの収益が増える可能性を表しています。

### Manure: smaller animal produces less manure

Smaller cows produce less manure, and therefore require a smaller manure storage.

Jerseys produce 24% less manure than other breeds.


Jersey manure contains 55% less phosphate than other breeds, therefore less land is needed for spreading.



この図は、小さい品種ならば糞尿も少なく、飼養頭数が同じならば、これを貯めるタンクも小さくて済みます。ちなみにジャージー種は他品種より 24%少ないと分析されております。

### Reproductive efficiency

Jersey heifers can be bred 30 days sooner than other breeds, and require fewer inseminations to become pregnant.



Calving at a younger age, and fewer days open mean Jerseys start making money sooner.

*Patty Jones*

また、ジャージー種の育成牛は他品種に比べて 30 日以上早く初回授精できるほか、分娩後の授精回数が他品種より少なくて済むことから空胎日数が少なくなり、より早く収入を得ることができると結論づけています。

## Calving ease

Jerseys almost always calve easily, and rarely require emergency veterinary assistance.



その他、ジャージー種を他品種と比べたとき、分娩に際して難産が少なく、緊急に獣医師を呼ぶことが少ないこと。

## Feed efficiency

A herd of smaller cows will require less feed than a herd of large-framed cows, yet still produce the same amount of milk solids.



からだ小さいので飼料が少なくて済む。しかしながら、同じ量の乳固形分量を生産することができます。

なお、ブライアン氏はカナダのAI事業体の一つであるシーメックス・カナダの役員も務めていることから、同社のジャージー種雄牛の宣伝もされておりましたが、ここでは割愛させていただきました。